

報告

## 2014 年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告 5 ——台北市での「2014 日本東北六県感謝祭」見聞報告——

Survey on Flights between Taiwan's Taoyuan International Airport  
and Japan's Iwate-Hanamaki Airport in 2014 V :  
Tohoku, Japan Thanksgiving for Taiwanese Earthquake Recovery Support, Held in Taipei, 2014

原 英子\*  
Eiko HARA

**Keywords:** *Thanksgiving for Taiwanese earthquake recovery support*

台湾への東北の震災復興感謝祭

### 1. はじめに

2014 年 12 月 19 日から 22 日にかけて、台湾台北市花博公園争艶館とよばれるエキスポ・ドームで、東北運輸局と東北観光推進機構など東北の観光関係団体よりなる「日本東北六県感謝祭実行委員会」主催の「日本東北六県感謝祭 1」が開かれた<sup>2</sup>。『岩手日報』によると、台湾で、東北 6 県による大規模な観光イベントをおこなうのははじめてのことで、岩手県からは県や観光関係者など 30 人が参加した<sup>3</sup>。

筆者は二日目の 12 月 20 日に同会場を訪れ、各県のブースをまわり、来場した台湾人へのインタビューをおこないながら、台湾の人たちがこのイベントをどのように受け取っているのか、参与観察をおこなった。このときの見聞を報告しながら、台湾と東北や岩手の観光について考えてみたい。

### 2. 見聞記

#### (1)開館前

「2014 日本東北六県感謝祭」をみるために、筆者は台北市北部にある花博公園争艶館に 10 時すぎに到着した。中国語で「2014 日本東北六縣感謝祭」の旗が立てられていたので、場所はすぐにわかった。（【写真 1】）

すでに人が 10 メートルほど並んでいた。その後もどんどん増えていくが、なかなか開場にならない。10 時半開

始だと並んでいる人たちが話していた。並んでいる 60 歳代にみえる男性にどのようにして今回の感謝祭のことを知ったのか、どんな興味でやって来たのか聞いてみた。すると、毎朝、花博公園を散歩しているが、争艶館で早く並んだ人にプレゼントがあるといううわさを聞きやってきたという。友人たちときていた。チラシをもっている人たちもいる。会場のドアの前に置いてあったのだという。テレビ局からも今回のイベントの取材にきており、列に並んだ人にカメラをむけていた。



【写真 1】「日本東北六縣感謝祭」の旗

争艶館に入るとすぐに、「台湾の皆様」にあてた「感謝状」が飾られてあった。ここに今回の「日本東北六県

\*岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科

感謝祭」の趣旨が書かれている。つまり、東日本大震災で台湾からの支援と協力が、東北6県の復興に大きく貢献していることに感謝をするという内容であった。

## (2)こけしの絵付け体験

開館になり、争艶館に入ると、まずビニールの風船でできた門があった(【写真2】)。門の左横や向こう側に各県のブースや観光業社のブースなどがあるようだ。多くの人が奥に急いで行く(【写真2】)。



【写真2】「2014日本東北六県感謝祭」と書かれたアーチ。右奥に人だかりが見える。

奥のほうに何があるのかと筆者もついて行くと、こけしを作っている宮城県の工房をみつけた。すでに何人かがこけしに顔を描くことに挑戦していた。親子でこけしの顔を描いている人たちもいた(【写真3】)。人気らしく、もう次を待つ人たちが並んで待っていた。



【写真3】こけしに顔を描く来場者たち

## (3)いわて

岩手県スタッフは背中に「黄金の國いわて。」という文字に、岩手県の観光キャラクター、わんこきょうだいが描かれている黄色のハッピーを着ていた(【写真4】)。朱色のハッピーを着ている人もいた(【写真5】)。こちらも

背中に「いわて」の文字とわんこきょうだいがみえる。なかなかすてきなデザインである。しかしどちらも「いわて」が漢字ではなくひらがなで書かれていた。



【写真4】黄色のはっぴ  
「黄金の國いわて。」と書いてある。



【写真5】朱色のはっぴ  
字の一部が見えないが「いわて」と書いてある。

台湾の公用語は中国語なので、普段使用する文字は漢字である。「ひらがな」は日本イメージがあるので「ひらがな」が書かれた日本商品を好きな人は多い。ただ「いわて」をみて「iwate」と発音できる人は日本語のひらがなを読める人に限られている。それに加えて漢字で書く「岩手」は、一般には「iwate」ではなく「yan-shou」という中国語の発音で認識されている。だから「いわて」という文字をみて「岩手」を思い浮かべる人は、どのくらいいるのであろうか。「岩手縣'yan-shou xian'」は、台湾ではそれ程知名度は高くない(原 2015 : 98-99)。まずは、漢字「岩手縣'yan-shou xian'」を知ってもらおうことのほうが効果的なのではないかと思った。

#### (4)テレビドラマの写真を背景に撮る「変身写真」

東北各県の名勝地の写真を、天井近くまで伸ばした大きなパネル写真群がみえた。その前に、ポツポツといくつか人だかりがしている。私が行ったとき、一番人だかりがしていたのは福島県のパネル写真だった。桜の花の下に白壁のきれいな城の写真である。会津若松の鶴ヶ城である。2013年のNHK大河ドラマで放映された「八重の桜」をイメージしたパネルである（【写真6】左下には「連続劇八重櫻<福島県>鶴城」と書いてある）。

城を背景に二人がチャンバラをしながら写真撮影がなされていた。【写真6】の右の男性は、来場者で、すぐに着脱できる鎧兜の衣装をまとい、左の男性とチャンバラをしている。それを、来場者の知り合いが写真撮影している。左の男性はこのコーナーのスタッフで、一人の撮影がすむと、次の人が鎧兜をまとうのを手伝い、その後、チャンバラで取り組み、来場者の写真を撮影してもらうことを繰り返していた。鎧兜の着脱に多少時間がかかるが、鎧兜を着て撮影されたい人たちが並んで待っていた。



【写真6】会津若松の鶴ヶ城に桜を背景に鎧兜姿の来場者



【写真7】福島県鶴ヶ城と桜の写真を背景に和服を着る。右端は友人だろうか。スマートフォンで写真撮影をしようとしている。

男性のチャンバラ撮影と直角に交わる壁沿い右隣にも、鶴ヶ城と桜の写真があった。こちらでは女性たちがスタッフに手伝われながら着脱が簡単な和服をまとっている。それを友人が写真に収めている（【写真7】）。

岩手県は、朝の連続テレビ小説「あまちゃん（小海女）」の着物を着て、久慈の海岸を背景としたパネルの前で写真撮影である。ここで「あまちゃん」の「海女」の衣装を着させてもらっている（【写真8】）。【写真9】は久慈の海を背景に写真撮影をしている様子である。



【写真8】スタッフに海女の衣装を着けてもらった来場者（右）と着けてもらっている来場者（左）



【写真9】久慈と三陸鉄道の背景。「あまちゃん」衣装で写真撮影している来場者

台湾では、日本のテレビ番組がたくさんみられている。それに関連した風景の、大きなパネル写真を背景に、日本イメージの強い鎧兜や和服、海女の衣装を着て、「変身」する。それを自らの写真に収めている。こうした「変身写真」は、スマートフォンなどが普及しているからこそ、入場者は気軽におこなえるようになってきているといえよう。

ここでポイントとなっているのは、本物の鎧兜や着物ではなく、着脱が簡単な「見た目」重視の道具を用意したところである。それは現代人の多くがスマートフォンなど写真を撮る道具を、各自持参していることを有効に使っているのだ。

このコーナーは、ひとときわ盛況であったようである。

#### (5) 「いっしょに撮影型」

(4)の「変身写真」とは別に、「いっしょに撮影型」もいくつかみられた。まずは岩手県が用意した展勝地の桜の下を走る馬車の写真である。その横には八幡平アスピーテラインの雪の壁の写真があった。会場の二隅の壁をうまく利用し、雪の壁の遠近感を表現している(【写真10】)。

筆者は左のほうに映っている展勝地の桜と馬車を背景に写真を撮っている人たちを見かけた。



【写真10】展勝地の桜と馬車、それに八幡平アスピーテラインの雪の壁。雪の壁は、部屋の壁2面を使って、直角に交わっている。これが遠近感を立体的に出している。

宮城県では、宮城県出身の石ノ森章太郎の作品、サイボーグ009シリーズに出てくる003のフランソワーズの衣装を着た人との写真撮影がみられた(【写真11】)。背景は宮城蔵王の樹氷風景である。



【写真11】アニメキャラクターとの記念撮影

#### (6)祭りを演出

屋外では、各県の演技があった。岩手県ではさんさ踊りがおこなわれ、秋田県ではなまはげと太鼓の共演であった。

岩手県は、人数が限られているものの、できるかぎり、夏祭りさんさの雰囲気を出すために、女性たちの掛け声とさんさの太鼓と撥の音を鳴り響かせていた(【写真12】)。



【写真12】岩手県のさんさ踊り



【写真13】秋田県のかなまはげと太鼓の演技

秋田県は、1人の男性と、2人のなまはげが、力強い太鼓の演奏をおこなっていた(【写真13】)。演奏の間には、一人が太鼓の演奏を続ける中、2人のなまはげが観客の近くをまわり、子どもを見つけては本来の祭りのときに出すなまはげの演出をしていた。

#### (7)試食体験

今回のイベントでは、日本酒を仕込む米などを試食的に食べてもらうコーナーや調理した稲庭うどんの販売などがみられた。

そのほか、各県が舞台を使って話を主体としながら県を宣伝する演出もおこなわれていた。

岩手県は、県の宣伝トークのあと、わんこそば体験をおこなっていた。希望者を選んで、タイムを計って、実際にわんこそばを食べてもらうという企画もあった。

### 3 参加型観光イベントへの注目

今回「2014 東北六県感謝祭」で注目したいのは、来場者参加型のイベントがみられたことである。こけしの絵付け体験などのほか、ここでは前述したテレビドラマの写真を背景に撮

る「変身写真」に言及してみたい。

台湾では、「変身写真」が普及している。日常とは異なる場を背景に、特別な衣装をまとうて撮る「変身写真」は、近年、日本でもみられるようになってきた。



【写真 14】日本統治時代に建てられた台北市水道博物館での結婚写真撮影風景

「変身写真」は、依頼者が選んだ衣装と、それに合わせたメイクをした後、プロのカメラマンが撮影する。台湾では、しばしば人生の重要なイベントでこうした写真を撮ることが普及している。もっとも一般的なのは結婚するときであろう。近年、古い建造物等を背景に、結婚記念写真を撮ることが盛んで、筆者も日本時代の古い建物やオランダ・スペイン時代の古い建物を背景にタキシードとウェディングドレスをきたカップルが記念撮影をしている姿をときどきみかけている（【写真 14】）。

こうした「変身写真」の普及を背景に、今回のテレビドラマの写真を背景に撮る「変身写真」をみると、結婚写真と違い、衣装の着脱が容易にできるような工夫がなされていること、スタッフが着脱を手助けするものの、撮影などは、来場者が自分のカメラででき、気軽に参加できることが特徴だと思った。現在、スマートフォンなどを日頃から持ち歩いている人は少なくないので、特に撮影準備をしていなくても写真が撮れる効果は大きい。

これまでも日本の観光地では、その観光地にふさわしい人型の、顔の部分のみをくり抜いたベニヤのボードを立て、旅行者が自由に記念撮影をする手法が長くとられてきたが、実際の衣装を着脱が便利のように改良した簡易衣装を身につけて撮る「変身写真」はボードに比べリアル感が増すこともあり、「体験」への満足度も高いと思われる。（ただし、筆者は個人的には、ボードに顔を入

れて撮るタイプの記念撮影も、ノスタルジックで捨てがたい魅力を感じている。）

今回紹介した「変身体験」は、このイベントだけではなく、いろいろな観光地ですでにおこなわれているようである。今回は、東北をアピールするイベント会場で行われた点が、常設の観光地の場合とは異なっていると感じ、注目してみた。

特にこの企画をくわだてた福島県は、「変身」の背景に桜、城、着物や武士の格好といった台湾人が好む日本イメージを利用した点、それに加えてもうひとり武士をスタッフとして常駐させチャンバラ場面という動的な場면을撮影できるようにした点が人気でた点だと思った。今後のイベントで、参考にする点が多数含まれていると思う。

#### 4. おわりに

以上、「2014 日本東北六縣感謝祭」に足を運んで、見聞した中から、抜き出して記してきた。

岩手県に関して、気になった点が2つあった。

ひとつは、本文で指摘したように、台湾では「いわて」というひらがな書きは、「岩手」という漢字と一般的には直接結び付きにくいので、漢字になおし、まずは「岩手」という地名を知ってもらうことが効果的だと思った。

もうひとつは、今回、岩手県にある世界遺産、平泉のコーナーをみかけなかったのはなぜだろうと疑問に思った。

何をどのように宣伝するのか、県としてまとめ、海外に発信していく体制の必要性を感じた。

今回、よかったと思った点は以下のようなものであった。

これまで見てきたように、来場者が東北に興味をもつよう、いろいろな工夫がほどこされていた。目についたのは、(2)こけしの絵付け体験や、(4)テレビドラマの写真を背景に撮る「変身写真」のように、来場者が自身が体験しながら興味をもってもらおうという趣旨のもの、(5)「いっしょに撮影型」のように、風景やアニメのキャラクターなどいっしょに写真を撮ることで楽しんでもらおうとするもの、(6)の祭りの演出のように、各県の祭り等を材料とした演技をイベントで効果的に演出するもので、来場者に記憶を焼きつけることができると思った。

こうした体験や見て楽しむイベントでは、来場者たちがもっているスマホなどの写真機を有効に使うことで、記録に残し、記憶にも残る経験となっていく。これを効果的に使えるかどうか、各県の切磋琢磨が期待される。

台湾において、東北地方や岩手県に対する認知度は、高いとは言いが、今回のような活動を通じて、東北や岩手を知ってもらい、興味をもってもらうことは、これからの観光にとって重要なことではなかろうか。

【注】

<sup>1</sup>台湾の人にとって「東北」は、遼寧省、吉林省、国龍江省がある中国の東北を指す。それゆえ日本の東北地方は、「日本東北」と表現したほうが、誤解が少なくなる。

<sup>2</sup>河北新報社 2014 「Rake さん台北で東北 PR、感謝祭 19 日～」 (「河北新報オンラインニュース」

[http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201412/20141217\\_72007.html](http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201412/20141217_72007.html)) 2014 年 12 月 21 日閲覧

台北ナビ「12/19-22 「日本東北六縣感謝祭」」

(<http://www.taipeinavi.com/special/5054485>)

2014 年 12 月 21 日閲覧

<sup>3</sup> 岩手日報社 2014 「東北の魅力 台湾で PR あすから初の観光イベント」 『岩手日報』 2014 年 12 月 18 日

河北新報社 2014 「Rake さん台北で東北 PR、感謝祭 19

日～」 (「河北新報オンラインニュース」

[http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201412/20141217\\_72007.html](http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201412/20141217_72007.html)) 2014 年 12 月 21 日閲覧

【参考文献】

原英子 2015 「2014 年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告 2—岩手県在住台湾人留学生とのフリーディスカッション報告—」 『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』 第 17 号

本研究は、岩手県立大学地域政策研究センター平成 25 年度地域協働研究 (地域提案型・後期) 「いわて花巻空港と台湾との国際定期便就航に向けた地域の国際化推進に関する研究」 (研究代表者 原英子) の助成によりおこなわれた研究成果の一部である。